

作成:2024年4月8日

硝子体注射施行前後の血管密度変化及び血流変化の研究について

今回、府中アイセンターでは加齢黄斑変性症、糖尿病性網膜症、網膜静脈閉塞症に対して硝子体注射を施行された患者さんの注射施行前後の血管密度及び血流変化を調査することになりました。

加齢黄斑変性症、糖尿病性網膜症、網膜静脈閉塞症に対して硝子体注射を施行すると黄斑浮腫や新生血管などが消退していくメカニズムについては様々な議論があり、これまでもさまざまな知見が報告されています。このたび、硝子体注射前後の血流変化と黄斑浮腫や新生血管の消退の関連について調べるべく当院当科にて臨床研究を行うことと致しました。

- 上記の治療の対象となると判断した患者さんで、一定の基準を満たされている患者さんへこの研究へのご協力をお願いしています。
- 今回の研究に関して患者さんの治療前後の診察時データを診療録から抽出して調査を行いますので、患者さんに侵襲が及ぶ研究を行う訳ではありません。
- 個人名は研究用に付与される番号等で匿名化し、個人情報公表されることはありません。
- 本研究に同意されない場合、同意を撤回された場合でも、診察内容に関して何ら変わることはありません。また、本研究はいつでも撤回でき、撤回しても患者さんに不利益は起こりません。
- この研究は府中病院の URL で情報公開しています。患者さんが希望される場合は学会での研究成果、研究計画書の閲覧が可能です。
- 当研究において追加の研究が将来必要であると考えられた場合は改めて倫理委員会の審査を受け、重要な研究結果が出た場合は、直接患者さんにお伝えする、または上記 URL で情報公開いたします。尚、この研究は府中病院単独研究であるため、情報の2次利用のための保存は厳重に管理し、他病院への情報提供の可能性はありません。
- 患者さん、またはその関係者の方から不明な点がございましたら府中病院府中アイセンターにご相談ください。

【研究期間】

契約締結日～2026年8月30日(150例)

***対象者**

- ・当院当科で2024年4月以降に、加齢黄斑変性症、糖尿病性網膜症、網膜静脈閉塞症に対して硝子体注射(アイリーア 2mg、アイリーア 8mg、バビースモ、ベオビュ、ラニビズマブ BS)を施行
- ・40歳以上
- ・AMDに対して毎月3回連続注射(4週間毎)を行う

府中病院 府中アイセンター

大阪府和泉市肥子町 1-10-17 TEL 0725-90-5123

問い合わせ医師 三島 壮一郎

皆様には、本研究の主旨についてご理解の上、ご協力をお願い申し上げます。

府中病院 府中アイセンター センター長 下村 嘉一